



現地従業員がリーダーとなり生産



日本で教育を受けた
現地従業員が指導



UATHの本格稼働により
タイの経済に貢献

特集

アジア最大級の アルミニウム工場として 本格稼働が進むUATH



拡張した生産ラインにより
生産品種が多様化



先端設備も
現地従業員が操縦



働きやすい環境を整備し
雇用を拡大



知見が問われるメンテナンスも現地従業員が対応

年産32万トン体制に向け、設備増強と現地化を推進

拡大する世界のアルミニウム需要を捉えるべく、2011年に設立されたUATHは、今後のUACJの成長を牽引する重要な海外拠点の一つです。東南アジアから中東、アフリカにかけては、これまで大規模なアルミニウム板圧延工場が存在しない空白地帯でした。そのなかでも急速な経済成長、工業化が進むタイに設立されたUATHは、2014年から冷間圧延・仕上ラインを稼働させ、第2期工事が完了した2015年からは casting 工程からの一貫生産を行う東南アジア随一のアルミニウム板圧延工場として本格生産を続けています。

日本から熟練した技術者を派遣し、早くから現地従業員の教育に注力。その結果、オペレーションレベルが着実に向上し、2018年度の生産量は計画通りの15万トンに達しました。世界のアルミニウム需要は今後も東南アジアなどを中心に拡大を続

けると予測されます。そこでUATHでは、2017年から設備増強工事を進め、2019年に完了。全ての設備をフル稼働させれば、生産能力は日本や北米の製造所と同レベルの年間32万トンに達します。

今後UATHでは、東南アジアや周辺地域の旺盛な需要を取り込みながら生産量を拡大させ、収益面においても本格的な投資回収・利益拡大フェーズに入ります。しかし、UATHの生産拡大は、単にUACJグループの事業成長を牽引するだけではありません。旺盛な現地需要に応じてアルミニウム製品を安定供給するのはもちろん、輸出拡大や雇用機会の提供などを通じて、タイの社会発展に広く貢献できると考えています。このように事業を通じて経済価値と社会価値を両立していくためにも、UATHは本格操業の実現に全力を注いでいます。

UACJの東南アジアにおける中核拠点が、タイのUATH※1です。

2014年に操業を開始し、翌年には casting 工程から仕上工程までの一貫生産をスタートさせました。

最近では現地従業員の熟練度向上にともない生産効率が着実に高まっており、

第3期投資による設備増強工事も完了。

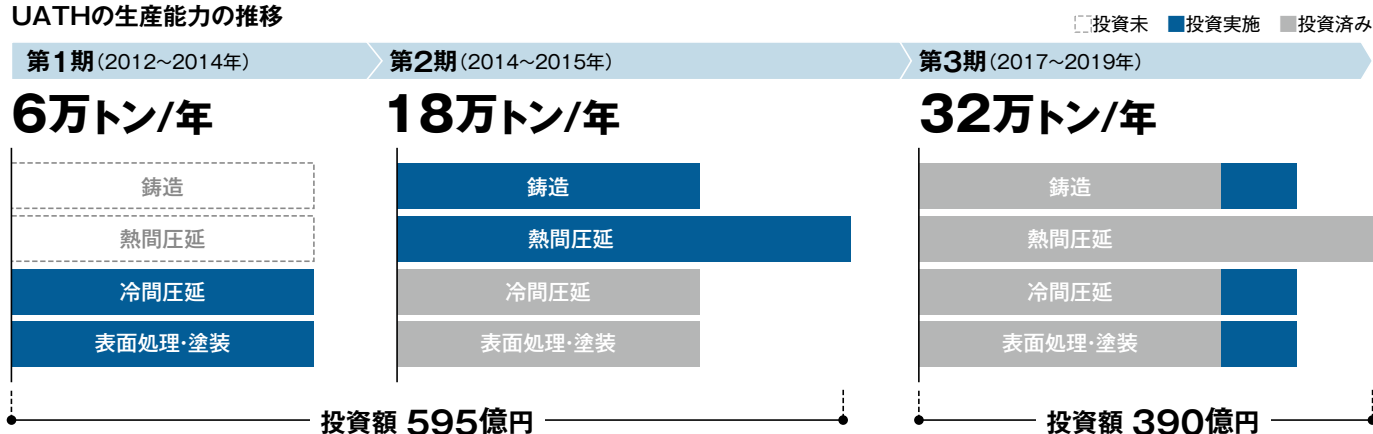
アジア～アフリカ地域のアルミニウム業界で圧倒的なプレゼンスを発揮するUATHの現状をご紹介します。

※1 UACJ (Thailand) Co., Ltd.

市場環境を見極めながら、増強してきた生産能力

UATHでは、3期に分けて生産設備を立ち上げています。第1期は、需要に早期に応えるために冷間圧延以降の工程を先行稼働させ、第2期で casting 以降の一貫生産を開始。第3期では、拡大する需要に応えるために生産能力の増強を行っています。

UATHの生産能力の推移



タイに根付くUATH

研究開発拠点をタイに設置するとともに現地の国立研究所・大学と共同研究

UACJは、2018年10月、タイ・バンコク近郊に、UATHを技術的にサポートするR&D Center(Thailand)を新設しました。同センターは、タイの気候や使用環境における開発素材の耐食性試験をMTEC※2と実施するなどして、現地環境に適した製品開発を行っています。また、タイの長期経済社会ビジョン「タイランド4.0」への賛同や、現地主要国立大学との共同研究を通じて人材育成など、製品開発に留まらず、タイの社会発展に貢献しています。

※2 National Metal and Materials Technology Center (タイの国立金属材料技術研究センター)



MTECとは、AIを活用した耐食性試験も実施していきます。



研究成果をタイの展示会で発表。テレビ番組でも取り上げられるなど注目されました。



操業・運営の現地化を進め、安全面でもトップレベルに成長



Senior manager of the Safety Department
UACJ (Thailand) Co., Ltd.
Ekaphat Poolsilpa

最近の生産量の伸びが示すように、UATHでは設備の稼働率が着実に高まっています。そして、UATHの生産現場をご覧

になれば、ご理解いただけると思いますが、その全ての設備を操業させているのが現地従業員です。また、従来は日本人の技術者がマネジメントを担当していましたが、現在はマネージャーの約4割が現地従業員となっており、操業だけでなく、製造所の運営も現地従業員が担えるようになりつつあります。

こうした操業・運営の「現地化」とともに、現在UATHが注力しているのが、需要増大に応えるための設備増強です。ただし、生産量を増やすために設備の台数を増やすほど、また生産品目を増やすために設備の種類を増やすほど、安全管理上のリスク

UATHの稼働とともに伸びるタイのアルミ輸出

UATHの販売量は年々増加しており、最近ではタイの主要ブランドのビール缶をはじめ、当社製品を頻繁に目にするようになりました。それは、生産性や品質などに対するお客様の評価が高まり、現地メーカーやグローバルメジャーからの引き合いが増えている証でもあります。また、タイ政府が注力する輸出振興においても、UATHの本格稼働によって、ベトナムやカンボジアなどASEANへの輸出が拡大しています。UATHは今後、アルミニウム製品の販売拡大を通じて、タイや周辺地域の経済発展や豊かな暮らしの実現に貢献していきます。



UATHの認知度向上にともない、商談機会も増えています。



お客様から新しい商材の相談も増えてきています。

販売

は高まります。世界トップレベルのアルミニウムメーカーとして安全の確保は、従業員に対しても、そして近隣住民に対しても重要な責務です。私は安全管理部門のリーダーとして、安全教育や安全点検などに携わってきましたが、日々の活動を通じて従業員の安全意識の向上を実感しています。そして実際に、無災害記録など安全面の成績は日本の製造所と肩を並べるレベルになってきています。こうした安全面においてもUATHは大きく成長しつつあり、この製造所を現地従業員で操業・運営できていることを誇りに思います。



安全な操業の徹底のために設備構造から教育しています。



日々コミュニケーションを図り、安全意識を高めています。